島根県生協連ニュース

No.32 2016年11月発行

島根県生活協同組合連合会
〒690-0017
松江市西津田1丁目10-40（生協しまね内）
TEL 0852-27-6284　FAX 0852-27-5742
ホームページ　http://shimane.kenren-coop.jp

井戸を掘る医師　中村哲氏講演会

「アフガンに生命の水を」開催！

～水がもたらす恵みと平和～

今日の講演会を聴いて普段のニュースや大学の講義を受けてわからないことを多く知ることができて大変ためになったと思います。特に中東アジアで様々な国の思惑が入交、気候も日本と比べても恵まれていない中で、現地の人と協力しながら現地の人たちのために働かれているというのにすごく感動を覚えました。

心が震える貴重な時間となりました。
とにかく無条件に現地の生命を考え、着実に歩みを進めておられる中村先生のエネルギーのすごさに圧倒されました。
また、支援は困った人を救済するという美談でもなく、一方的なものでもないということを再確認できました。平和な日本で毎日起こっている痛ましい事件、危機迫るアフガニスタンで見える希望と人間らしい喜び・・・考えてしまいます。
いかなる場所でいかなる状況に置かれようと、相手の立場に立って考えることが大切であるとかんじました。

2016年８月20日（土）松江テルサホールにて開催し、約250名が参加し、講演に耳を傾けました。

1984年、パキスタン、ペシャワールに赴任され、ハンセン病の治療に力を注ぐなかで、医療事情が悪い山岳地帯に診療所を開設。命を助けるために、きれいな水さえあればと井戸を掘り、裸足で歩くしかない環境をかえるためサンダルも作成しました。

ソ連軍の撤退、内戦、9.11に端を発する空爆など戦乱状況下、診療所が１か所を除き閉鎖。病気の根幹は、食料不足、栄養失調。旱魃、戦争によって砂漠化した農地を回復するために2003年灌漑用水路建設「緑の大地計画」に着手し、2010年に完成しました。離散した農民も戻ってきて(上写真)、穀類、果樹園、畜産も可能になってきている。現在も、身の危険を感じる中で、医療活動、新たな水利事業に取り組んでおられます。講演後の質問で、現地の農業や情勢の立場などの暮らしぶり、命が脅かされそうになったときの中村講師の思い、教育などについて、現地の実情やご自身の想いを率直にお答えしていただきました。

ピースアクション2016（平和の取り組み）

☆ピースリレー（平和行進・日本海コース）京都⇒鳥取⇒島根⇒広島へ

７月23日、ピースリレー日本海コースの米子行進・平和のつどい・引継ぎ式は、島根県からは33名（生協しまね５名、島根大学生協27名、島根県連１名）、全体で100名の参加で行われました。出発式で、市長からのメッセージ、京都ピースパレード報告があった後、酷暑の中、米子駅まで行進をしました。平和の集いでは、今年も、初級から上級用まで考えられた島根大学学生委員会の平和クイズが実施され平和について考える機会となりました。

同日、広島県北行進・平和のつどい・引継ぎ式も開催され、島根県からは８名（生協しまね４名、出雲医療生協２名島根県連２名）参加し、全体では約130名が参加しました。

☆ピースナイター2016 “平和の願いと核兵器廃絶をアピール”

８月６日(土)、ヒロシママツダスタジアムで開催されたピースナイター2016には、計132名（大人87名、小中校生35名、小学生未満４名）が参加しました。

５回終了後に、原爆ドームと同じ高さ（25㍍）の位置で、緑と赤の２色でピースラインをつくり、核兵器廃絶の思い、平和の大切さをアピールしました。

今回は、カープの優勝争いもあり、350名の参加応募があり抽選となりました。開場時間が早まったこともあり、自由席がほぼなくなっていて、多くの方が立席での応援となりました。また、９回裏途中ぎりぎりに集合時間になったため、後ろ髪をひかれる形で球場を後にすることになり、次年度への課題となりました。

【参加された方の感想】

今回参加できて、疲れたけど楽しかったです。試合を球場で観戦したことはなかったので、球場の熱気に圧倒されました。私は、生協に加入して２０年以上たちます。今まで「平和」に関する行事参加したことはありませんでした。今回のように年に１回でもピースナイターとして観戦者全員で盛り上がることは、平和の大切さを感じることができて良いことだとおもいました。できれば、次回からはきちんと席に座られたらいいなと思いました。（50代）

71年前の８月６日　広島に原爆が投下された日にピースナイターに参加、深く心に残る観戦ができた事に感謝します。「平和への祈り」「２度と過ちをしない」「戦争は絶対悪である」という思いを胸に、イマジンの曲に乗せて、全員が緑色のポスターを大きく力強くかかげ、スタンドが平和の緑色一緒に染まりました。今のヒロシマの街は、川はとても穏やかで戦争があった事さえ忘れそうでしたが、決して忘れてはならない８月６日です。

これからも「戦争放棄」「核廃絶」等憲法９条を守る運動続けていきたいと思います。一人でも多くの方にピースナイターの事を伝え、みんなにも参加してもらいたいものです。貴重な体験ありがとうございました。（60代）

私たちは３回目で、平和がずっと続いてほしいと思いました。ピースナイターは、いい計画だと思いました。

これからも、ピースナイターに参加して平和をいのりたいと思います。（11歳）

第32回中四国生協・行政合同会議開催

９月１日（木）例年、中四国の各県持ち回りで開催している中四国生協･行政合同会議が『住みやすい地域づくりに求められるこれからの連携』をテーマに、参加68名（うち行政16名）ホテル一畑にて開催致しました。

生協・行政合同会議は、生協の管轄官庁である厚生労働省や各県の生協担当部局、及び日本生協連や各県生協連が参加し、生協の運営上の課題について意見交換を行なう会議で、生協の社会的な役割・責任が期待されてきているなか、分散会で意見交換をしてきています。

小泉信司日本生協連常任理事・中四国地連議長、溝口善兵衛島根県知事のご挨拶の後、厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室金子雄一郎室長補佐より、現在の福祉の状況と、政策、生協への期待など、消費者庁消費者教育・地方協力課平田繁成政策調査員より、「改正消費者安全法と地域の連携」と題してこれからの地域に必要な連携について報告されました。

生協からは、日本生協連伊藤治郎渉外広報本部長より、熊本･大分地震での生協の取り組み、2015年度全国の生協の取り組み、生活協同組合おかやまコープ竹田芳子全体理事 から、“おかやま育ち”商品での地域への貢献、地域見守り活動、地域福祉相互扶助参加、防災訓練ワークショップ等、地域とのつながりについて、また、生活協同組合とくしま生協多田道代副理事長からは、「子育て支援」と「ハッピー♡シリーズ」の取り組み、子育ての視点から始まった取り組みが地域に広がり、見守り協定など行政とのつながりへの進展等、これからの連携の展望について報告がありました。

開催県報告では雲南市政策企画部地域振興課板持周治主査より、「小規模多機能自治による住民主体のまちづくり」と題して、高齢化率が日本全体から20年進んだ雲南市が共同のまちづくりをめざしてすすめてきた地域自主組織づくりについて、事例をふまえて、行政と地域自主組織の円卓会議など連携について報告がありました。

また、地域つながりセンター高橋玲子代表より、「おたがいさま」活動から、地域の団体・組織との地域フォーラム、あったか地域づくり協議会への発展と連携を広げてきた経緯が報告されました。

報告後は８グループで参加各県行政報告にあわせて、「生協と行政で一緒にできること」をテーマに意見交流をしました。

～意見交流より抜粋～

○各県行政との顔の見えるつながりを強め、これからの連携について積極的に交流ができたと思います。
○子育て支援・健康づくり運動を県と一緒にやりたい。
○縦割りでなく、横のつながりで、取り組みは重層的に連携“紡ぎをし”“くらし丸ごと”紡ぎ直すことが必要。
○“生協”がくらしの様々な分野にかかわっていける可能性を感じた。（行政からのご意見）
○相談窓口がいろいろあって「この問題をどこへ言ってよいか？窓口同士の連携が必要」と思う。
○県には生協の部局あるが、市町村にはない～生協の認知度低い。
○生協も加わった「消費者安全確保地域協議会」（地域ネットワーク）づくりが今後進んでいくよう望む。
○行政と生協の会議は今後も継続していくことは大切。行政も他県や他市の活動は参考になる。
○フードバンク活動はバラバラでやるよりも、生協、行政が連携してやることで仕組み化できるのでは？

協同組合連絡協議会学習交流会が開催されました。

７月29日（金）、林業会館にて協同組合連絡協議会学習交流会を開催しました。この交流学習会へは、構成団体より55名が参加し交流をはかりました。

講演①「島根と里山資本主義」夜久恭裕氏（ＮＨＫ報道局おはよう日本ディレクター）

里山資本主義の生まれた経緯、利益追求のマネー資本主義のサブシステムとしての里山資本主義の根本的な考え方を事例も交えお話しをいただきました。

今、世界が注目しているのは「社会貢献をしながら利益を得る」いわゆるソーシャルインパクト投資といわれるもので、利益追求だけの姿では社会は受けつけなくなっている。だから、①身近な資産を生かす。②地域での経済を循環させる。③短期利益より長期的な利益を見据える。ことが大切であり、不安定なこの経済社会の安定化の一翼を里山資本主義が担っており、「投資」「若者」「指導者（技術）」の３要素がそろったとき、里山資本主義は開花すると講演いただきました。

講演②「協同組合と地域への参加」高田公喜氏（広島県生活協同組合連合会専務理事）

今年で31年目を迎えた広島県における連絡協議会の活動、ならびにレイドロー報告にもとづく現在の協同組合の姿、協同組合原則変遷による協同組合としてのコミュニティによる強みの発揮等、協同組合としていかに地域社会と関わっていくのか、その大切さについて講演がありました。また、世界の協同組合の取り組みについても紹介され、協同組合人としてのあるべき姿を再認識できた講演となりました。

食料・農林漁業・環境を考える県民フォーラム学習会が開催されました。

８月25日（木）第11回目となる学習会は「島根県における６次産業～その実態、課題、推進策を考える～」をテーマにサンレディー大田にて開催されました。

島根県島根ブランド推進課調整官　鳥屋尾　健氏より、課題、支援策ついて基調報告があった後、実践者として、有限会社木村有機農園代表取締役社長　木村晴貞氏、益田市美都総合支所地域づくり推進課　梅津明則氏、ＪＡしまね石見銀山女性部農産加工場　旬彩工房きれんげ代表　神谷英子氏をパネリストに招きパネルディスカッションを開催しました。

第43回通常総会開催報告

６月22日(水)通常総会が全代議員出席のもとで開催され、2015年度活動報告、決算及び損失金処理案、監査報告、2016年度活動方針及び予算、会員規約変更の件、役員選任の件、役員報酬の件など全議案が承認可決されました。方針では、中村哲医師講演会の開催、中四国行政合同会議を島根県と協力して開催することなど、平和や生協の社会的役割の発揮の取り組みについて提案しました。

【来賓】

県消費とくらしの安全室室長　石井幸美　氏
県消費とくらしの安全室　城市賢二　氏
日本生協連中四国連事務局　黒田　勉　氏

今後の予定

【11月～2017年１月　主な予定】

★県生協連監事研修交流会
日程：11月４日㈮
会場：ホテル白鳥

★鳥取県生活協同組合連合会創立50周年記念式典
日程：11月８日㈫
会場：会場ホテルモナーク鳥取

★県生協連第５回理事会
日程：11月16日㈬
会場：生協しまね

★中四国生協運営委員会／県連活動推進委員会
日程：12月6日㈫
会場：岡山オルガホール

★中四国ブロック消費者フォーラム
日程：1月20日㈮
会場：サンポート高松

★県生協連第6回理事会／県行政県生協連合同会議
日程：1月25日㈬
会場：生協しまね